

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市幸町南児童館
2 指定管理者	特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク
3 指定期間	令和2年4月1日から令和7年3月31日まで
4 施設の利用状況	《利用者数》 10,302 人 (前年度比 54.9 %) 令和元年度 18,760 人 平成30年度 22,741人 平成29年度 22,805人
	《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 29,882 千円 (26,234 千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円) 《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円) ()は前年度決算額
	《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者会を実施。
6 利用者の声	

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。今年度においては地域との交流事業が多く休止されたが、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（ MIYAGI子どもネットワーク ）による自己評価》

団体は今年度「新型コロナウイルスから子どもを守る」ことを最重要課題とした。それを受けて幸町南児童館では「やすらぎの空間・わくわくするところ」を目標に掲げ、乳幼児親子や児童クラブ児童が安心して過ごせる児童館運営を心掛けてきた。特にコロナ感染が発生しないように消毒作業には全職員で取り組んできた。来館する子供たちは、日常的な遊びだけでなく、定期的に開催されるイベントを大変楽しみにしている。しかし今年度は、予定していた行事を次々と中止にせざるを得なかった。飲食を伴う行事もすべて中止となったため、子供たちに「わくわく」を味わわせることが難しい状況が続いた。それでも、規制が緩和された頃から、3密を避けながら小規模な企画は実施してきた。また新しい取組(折紙タイム・カプラレゴタイム・運動遊び)も始め、室内遊びと運動遊びのバランス作りにも留意し、子供たちは快活に生活を送ることが出来たのは幸いである。館内での事故はゼロだった。乳幼児親子の本館企画(ぶちぶち、よちよち、さいわいくん、ほっとカフェ)への参加率が大変高まってきたのは、日常生活の中で楽しみを享受する機会が減少してきていることを反映している。現在の状況で最大限のサービスを提供するべく知恵を出し合い様々な工夫をしてきた。努力した成果は「児童館利用者アンケート」ならびに「児童クラブ保護者アンケート」の結果に反映され、大変良い評価をいただいた。

今年度は新たに赤十字奉仕団との連携行事(簡単クッキング)を組み入れることが出来た。今現在の児童館の状況下で実施可能な企画を模索し、新年度も「やすらぎのある児童館・わくわくする児童館」を目指し、地道に業務を遂行していきたい。そして子供が地域で育つような事業の企画や地域連携に取り組み、社会参画できる子供たちを育てていきたい。

《施設設置者（仙台市）による評価》

令和2年度は、コロナ感染症の影響で緊急事態宣言が4月に発令され、小学校が5月まで休校となったが、休校中も児童クラブの受け入れを行った。この間、乳幼児親子の自由来館及び小学生の自由来館を休止していたが、その後、乳幼児親子の自由来館は6月から平日午前のみ再開し、小学生の自由来館は10月から土曜日のみ再開した。感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力を要した児童館運営となった。

放課後児童健全育成事業としてペットボトル風鈴などの工作に取り組んだ「創作ひろば」、季節に合わせた「折り紙タイム」や「壁面作り」、人気の「カプラレゴタイム」などの事業を通して子ども達の自由な発想力を認め、豊かな感性を育てている。東北学院大のボランティアサークルとの共催事業は交流こそできなかったが、とんとん相撲キット等をもらい児童クラブ行事として取り組むなど工夫し、繋がりを継続することができた。また、日常的に積極的な外遊びの時間を設けたほか、様々な昔あそびに取り組む「運動あそび」の時間を通して体力作りや集団遊びを通じた社会性の育ちを促した。様々な事業において館長をはじめとしてスタッフが子ども達と一緒に遊びながら指導を行い、遊びの経験を広げ、心身の健康増進に取り組んでいる。中止となる地域交流推進事業も多くあったが、例年地域交流の機会となっている「ありがとうの花束」や「すずめ踊り」への取り組みは、指向を変えるなど工夫をしながら継続に努めた。

子育て家庭支援事業では、子育て相談の場である「ホッとサロン」と母親同士の情報交換の場となっていた「コトノハカフェ」を組み合わせることで、専門的な相談から気軽な仲間作りまでそれぞれの子育て家庭のニーズに応える新しい事業に発展させることができた。恒常的に自由来館時の利用があり、乳幼児対象行事「よちよちドロップ」など人気の行事を通して豊かな遊びを提供し、地域の乳幼児親子を支援するための環境作りに努めている。消毒や換気などにも気を配り、安心して過ごせるきれいな環境と居心地の良い温かな雰囲気作りを大切に事業に取り組んでいる。

総合評価

S

四 その他特記事項

(上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する)

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課